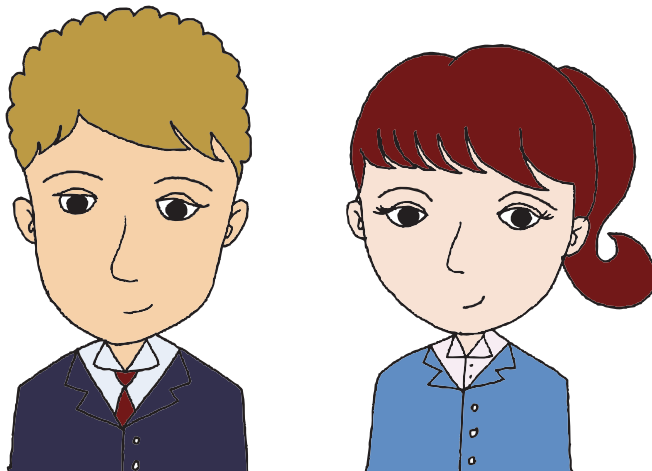


# 外国人留学生の就職活動、 思いを達成するために

～ 外国人留学生等相談窓口の相談事例から ～



2015年11月



公益財団法人 京都府国際センター

近年、京都で学ぶ外国人留学生の皆さんの出身国・地域、日本語能力、文化的な背景等が多様化し、留学生の皆さんがもつ課題や悩みも多岐にわたるようになってきました。母国を離れ異文化のなかで生活し勉強する留学生にとって、生活、勉強、アルバイト、健康、家族や友人、就職やキャリア形成のことなど課題や悩みはつきません。そのため、京都府国際センターでは、外国人留学生を対象に、生活相談など幅広い相談に応じているところです。

そのようななか、制度やしきみが母国と大きく異なるため、留学生の皆さんが特に戸惑うことのひとつが「日本での就職」です。京都府国際センターの相談窓口でも、就職活動やキャリア形成に関連する相談がたくさんあり、また、就職した後、別の会社に転職したいという相談も増えています。

留学生の皆さんが日本で就職しようとするとき、日本人学生にはないさまざまな課題を乗り越えなければいけません。日本人学生の場合とは違って、母国の家族のこと、結婚のこと、将来の帰国のことなど、いろいろ考えを整理して取り組まなければいけません。留学生にとって、就職は”企業とのマッチング”だけでは片づけられない大きな課題だと思います。

留学生の皆さんの状況や企業の状況は、一人一人、一社一社、異なりますので、簡単な助言はありません。しかし、相談のなかには、広く共通する悩みや課題がみられます。そこで、ここでは、就職活動に関して相談の多い課題を選んで、事例としてご紹介します。留学生の皆さんが、日本で就職活動を進める際に、参考にいただければ幸いです。

2015年11月

公益財団法人 京都府国際センター

監修 / 京都府国際センター外国人留学生等支援員  
谷川 拓巳 張 健

## 内 容

- 事例 1 ~ 3 日本の就職活動
- 事例 4 ~ 7 企業を知ろう
- 事例 8 ~ 12 自分を知ろう
- 事例 13 障害のあるかた
- 事例 14 ~ 15 転職は慎重に
- 事例 16 在留資格のことを考えよう

イラスト / 京都府名誉友好大使 サンパキッジ ピラヤー

## 事例

# 1

## 日本の就職活動 ～ 開始時期がおそくなると不利！

就職活動は、大学の早い時期から始まります。  
システムを知っておきましょう。

留学生の毎日は…「大学の授業が忙しい、アルバイトも忙しい、自分の時間もほしい」。「大学のキャリアセンターは、日本人学生の行くところ」と感じているかも知れません。そして、「就職のことは、また、ゆっくり考えよう」と思っていると、就職活動を始めるのがおくらせてしまいます。

就職活動のなかには、グループ面接、グループディスカッション、集団面接、個人面接など、段階によっていろいろな形式があって、一つ一つ意味が違います。

日本の就職活動のシステムを少しでも知っていれば、大学の勉強も就職活動も、どちらも、計画的に進めることができます。

### ■相談の内容

- ◇ 大学4回生の夏から、就職活動を始めた。それまで、大学のキャリアセンターに行ったこともなかった。
- ↓ 20社にエントリーしたのに、すべて不合格。
- ↓ その後、応募した1社も、6回目の最終面接まで行ったのに、不採用になった。
- ◇ なぜ、こんなにうまく行かないのか…とてもショックを受けている。

### ■助言・指導を受けて、実施したこと

- ◇ 就職活動を継続した。
- ↓ 大学卒業まで、時間が少なくなったので、卒業すると同時に、いったん、就職活動のための「特定活動」の在留資格に変更した。
- ↓ 「日本語の学習」と「自己アピールの練習」を続けた。
- 特に、自分の力・能力・特性を客観的に知り、言葉(日本語)でわかりやすく相手に伝える練習が役に立った。
- ↓ 出身国とビジネスをしている企業を探し、訪問を続けた。
- ◇ 卒業後、6月、出身国に進出を計画している企業と、話が進み、中途採用が決まった。



(大学4回生 女性 東南アジア)



### カウンセラーから ひとつ、ふたこと

もし、早い時期から活動を始めていれば、これほど苦労することはなかったと思います。  
1～2回生のときから、相談窓口で、日本の就職活動について話を聞きましょう。

企業との面接は、5回、6回と行われることもあります。回数が増えると、面接になれて、緊張感をなくすことがあります。最後まで気を抜かないことが大切です。

企業が見ているのは、あなたの入社したいという意味と将来性です。また、入社後のあなたの配属先も考えながら、見えています。

## 2

大学は勉強するところ、就職を考えるのは卒業が決まってから…ではありません。

多くの留学生は、日本に来たとき、「大学は、勉強するところ。仕事は、卒業してからインターンシップも経験して、じっくり考えて決めるもの」と思っています。

しかし、日本の就職システムは、そうではありません。

わかりにくいシステムなので、相談窓口等で、納得できるまで時間をかけて話を聞きましょう。

## ■相談の内容

- ◇ デザインを専門に学び、ずっと、京都の老舗(しにせ)で仕事をしたいと思っていた。
- ↓ 大学院2回生の8月、大学の窓口に行ってみると、もう良い情報はなかった。
- ↓ 就職したい企業は、就職活動を受け付ける期間をほとんど終えているらしい。
- ◇ どうすれば良いのか？



## ■助言・指導を受けて、実施したこと

- ◇ 希望の企業を訪問してみると、感触はそれほど悪くなかった。  
『店舗の店員として』であれば採用する」という話も出た。しかし、在留資格の問題があるので、それは不可能だ。
- ↓ そこで、お店を訪問して勉強させてもらったり、お店のイメージや新商品などの提案書を作って、企業にプレゼンテーションする機会をお願いした。
- ↓ そんなとき、たまたま、お店で社長に出会った。そのとき、「この会社で働きたい」という決意を社長に伝えた。
- ◇ その熱意が通じて、幸運にも、採用されることになった。

(大学院2回生 女性 西ヨーロッパ)



### カウンセラーから ひとこと、ふたこと

もっと早い時期から活動を始めていれば、苦労しないで就職できたと思います。お店で会った社長に熱意を伝えたことは立派ですが、いつも、幸運にめぐまれるとは限りません。

企業の人にうまく連絡して、お店を訪問したりプレゼンテーションする機会をもらったことは大きな一歩でした。この努力がなければ、幸運にも出会えなかったでしょう。

## 参考

大学・大学院に入学したときから、キャリアプランについて考える必要があります。

具体的には、次のことから始めましょう。

- ◇ 日本の社会を知る：日本人の友人をつくり、アルバイトなどを通じて、日本の社会や企業のしくみを勉強する。
- ◇ 自分を知る：自分の過去(何をしてきたか)、現在(何をしているか)、将来(何をしたいか)について、じっくり考える。

## 事例

# 3

## 日本の就職活動 ～ 理解しないと ストレスがたまる

確かに、日本の就職活動のシステムは、  
わかりにくいですが…

日本の就職システムは、日本人にもわかりにくいので、留学生はとても苦労します。  
すべてのことを理解して納得するのは、むずかしいと思います。

しかし、相談窓口で詳しく説明を聞き、疑問に思うことをすべて質問してください。  
そうすることで、日本のシステムに対して、ストレスを小さくすることができます。

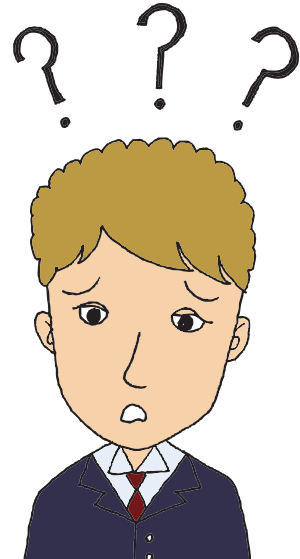
### ■相談の内容

- ◇ 母国の大学で日本文学を学び、いま日本の大学で研究している。
- ↓ 来日したときから、日本で就職したいと考えていた。
- ↓ ただ、実際に就職活動を考えたのは、博士号が取れる見通しがついてからだ。
- ◇ 就職するために何をすればよいのか、よくわからない。新規採用・中途採用などのシステムも、なぜそれが必要なのか、意味がわからない。

### ■助言・指導を受けて、実施したこと

- ◇ 日本の就職活動のシステムは、わかりにくい点が多い。  
システムに問題もあるので、少しずつ変わっている。  
しかし、すぐには大きく変わらない。
- ↓ そのような現状について、疑問に思ったことを、  
ひとつひとつ説明を受けて、話し合った。
- ↓ 本人が納得できないところも多く残ったが、  
「日本の現実」としてよく理解した。
- ↓ 履歴書を、あちらこちらに一方的に送ることをやめた。
- ↓ まず、自分が日本で発揮できる強み(日本人と異なる  
視点など)について自己分析し、プレゼンテーションを  
できるように進めた。
- ◇ 最終的に、大学講師の職を得ることができた。

(大学院3回生 男性 中東)



### カウンセラーから ひとつ、ふたこと

日本式の就職システムには、問題もあります。少しずつ変わっていますが、いまずぐに大きく変えることはできません。

ただ、就職活動する皆さんの状況は、一人一人、一つ一つ、違います。  
そして、あなたの強み・良いところを生かす方法があります。

経験のあるカウンセラーと話し合っ、ストレスを小さくして就職活動をしてください。

## 事例

# 4

## 企業を知ろう ～ 目標は明確だが 有名大手しか知らない

企業をよく知ること、  
自分に適した企業を見つけましょう。

留学生の知っている企業数は、少しです。留学生に知られていなくても、日本には、すぐれた企業が多数あります。あなたが目標の企業を決めるとき、「自分は、企業のことをよく知らない」ことを頭に入れて、できるだけ幅広く情報を集め研究してください。

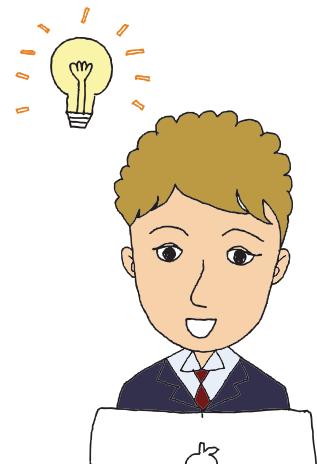
自分一人で情報を集めると、かたよることがありますので、相談窓口に行ってみましょう。

### ■相談の内容

- ◇ 大学院の研究テーマに関係する食品系の企業、特にサプリメントを扱う企業への就職を希望していた。
- ↓ 大学では、日本の就職活動について助言を得られなかった。
- ◇ 就職活動について知りたい。

### ■助言・指導を受けて、実施したこと

- ◇ 本人の希望にしたがって、大手の食品メーカーを目標にして、短期間のうちに情報を集め研究した。
  - ↓ 残念ながら、一次面接まで行って不合格となった。
  - しかし、就職活動を実際に体験できたので、成果はあった。
  - ↓ その後、さまざまな企業の情報を集め研究した。
  - これまで知らなかった(しかし日本ではよく知られている)水産食品メーカーを知った。
  - ↓ この企業について、さらに詳しく研究した。
  - ◇ 企業訪問し、話を進めた結果、内定を得ることができた。
- (大学院1回生 男性 東南アジア)



### 👉 カウンセラーから ひとつ、ふたこと

自分が心から就職したいと思う企業は、意外に、自分が考えていなかったところで 見つかることがあります。はじめは、企業の選択肢を広く考えましょう。

目標企業を絞り込んだ後は、グループワーク、マニュアル作り、シミュレーションの手法で企業を研究すると良いでしょう。

## 参考

**グループワーク**：就職活動で同じ課題をもつ留学生に参加を呼びかけて、4名程度のグループを構成。カウンセラーや参加留学生が、目標企業に関してテーマを出しあい、ディスカッションをします。目標企業について、一人では気づかないことが発見できるほか、ディスカッションの練習にもなります。

**マニュアル作りとシミュレーション**：目標企業の社員になったつもりで、商品開発、事業展開、広報戦略等について考えをまとめ、実施する手順などを整理します。また、わかりやすく発表したり、質問に答えるための準備と練習をします。その内容は不十分かも知れませんが、はっきりした課題意識をもって情報を集めるので、頭にとてもよく入ります。



## 事例

# 5

## 企業を知ろう ～ 中小企業に良い企業がいっぱいある

大企業ばかりでなく、中堅・中小企業、地域で知られた企業に目を向けましょう。

留学生の皆さんが、テレビやマスコミで名前を知っている大企業にエントリーするのは、当然といえば当然です。

しかし、自分がどのように働きたいのか、どのような仕事をしたいのか、ぜひもう一度、じっくり考えてみてください。そして、目標にする企業のことをよく調べてください。

日本には、企業の大小にかかわらず、多くのすぐれた企業があります。そして、自分がその企業でどのように活躍できるか、シミュレーションしてください。

### ■相談の内容

- ◇ 早い時期から就職活動を始めていた。  
精密機械分野の大企業に就職したい。
- ↓ 20社程度にエントリーしたが、落ちてしまった。
- ↓ その後、活動がうまく進まず、どうすればよいか、わからなかった。帰国するしかないと考え始めた。
- ◇ 生活のことなど、いろいろなことが不安になってきた。



### ■助言・指導を受けて、実施したこと

- ◇ エントリーがうまく進まなかった原因を、話し合った。
- ↓ 対策として、テーマを決め、100字、200字で文書を書くなど、表現やまとめ方の練習をした。
- ↓ 同時に、大企業ばかりでなく、中堅企業、地域で活躍する企業という分類により、企業の情報を集め研究した。
- ↓ 次第に「自分は、大企業より中堅企業のほうが力を発揮できる」と考えるようになった。
- ◇ 次の年度に、中堅企業の説明会に参加するなかで1社と話が進み、中途採用が決まった。

(大学3年生 男性 東アジア)



### カウンセラーから ひとつ、ふたこと

企業の情報を集めて研究していくうちに、仕事のイメージがわいてきます。  
そうすると「自分に適する企業」について、考えが変わることがあります。  
外国人の在留資格制度について、企業が理解していないことがあります。  
疑問に思うことがあれば、早めに相談窓口で確認しましょう。

### 参考

事例5の場合、就職活動に時間がかかったので、入国管理局に、就職活動のための「特定活動」の在留資格の申請をしました。その申請期間中に、採用が決まったため、採用時期、研修や一時帰国などについて、在留資格制度に違反しないように企業と留学生の間で連絡調整が必要になりました。企業側も、必要な手続きについて十分に理解していない場合があるので、専門家(入国管理局届出済行政書士等)のサポートを得ることが望ましいです。

## 事例

## 企業を知ろう ～ インターンシップの 心得 (こころえ)

# 6

インターンシップは、とても有効です。  
ただし、準備とフォローが重要です。

インターンシップを行うことによって、日本の企業や仕事について 具体的なイメージを得ることができます。

ただし、就職について、あなたの考えや知識がどれくらいまとまっているのか…  
それによって、インターンシップのなかで「学ぶポイントや内容」が変わります。

ですから、あなたが目標や成果をよく理解してインターンシップに参加することが重要です。

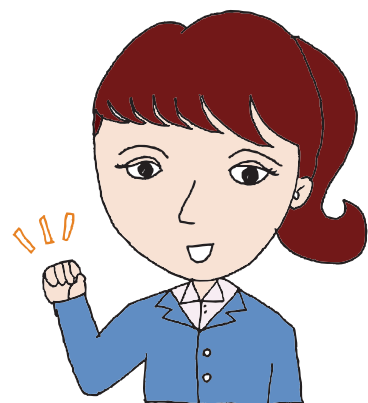
### ■ 相談の内容

- ◇ 研究留学生である。日本での就職を希望していた。
- ◇ 留学期間の最後の3か月で、就職活動をして就職先を決めたい。

### ■ 助言・指導を受けて、実施したこと

- ◇ チャレンジ(挑戦)として活動する価値はあるが、成功する確率は非常に低い。
- ↓ そういう前提で、3社でインターンシップを行った。
- ↓ 準備・フォローを十分に行った。
- その結果、日本の企業や仕事について、明確なイメージを持ち考えをまとめることができ、とても効果的だった。
- ↓ ある企業が、英語による書面作成業務のため人材を求めていた。
- ↓ これに応募して、話を進めた。
- ◇ その企業から高い評価を得て、内定に結びついた。

(研究留学生 女性 東ヨーロッパ)



### カウンセラーから ひとつ、ふたこと

とても短い就職活動でしたが、みごとに就職できたのは、本人の能力と努力、そしてインターンシップを効果的に使ったことです。

インターンシップでは、留学生のレベル・段階にあわせて目標を設定し(カウンセラー等が指導し)、本人が良く理解して参加することが重要です。

もちろん、終わってからフォローすることも大切です。

## 参考

事例 6 で 研究留学生が就職するとき、入国管理局での手続き (必要書類、一時帰国の必要性、企業研修の実施希望など) が、やや複雑になりました。

企業側も、必要な手続きについて十分に理解していない場合があるので、専門家(入国管理局届出済行政書士等)のサポートを得ることが望ましいです。



## 事例

# 7

## 企業を知ろう ～ 企業を知るためには 勉強が必要

自分の足で企業をまわり、企業のかたと  
出会う機会をいかす努力は貴重です。

自分の足で企業をまわり、企業のかたと出会う機会を得ることにより、貴重な経験と知識を積むことができます。ただ、訪問するときは、いろいろ準備する必要があります。

相談窓口で助言をもらって、計画的に、企業を訪問したり交流会に参加したりしましょう。

### ■相談の内容

- ◇ 当初、来日したときは、卒業後は帰国するつもりだった。
- ↓ しかし、いろいろ考えるところがあり、卒業直前の12月になって、日本に残り就職しようと意を決めた。
- ◇ 就職は可能かどうか？

### ■助言・指導を受けて、実施したこと

- ◇ 大学の勉強と関連する薬分野の企業にまを絞って、活動を始めることにした。
- ↓ 履歴書の書き方など、すべて、いちから学習を始めた。
- ↓ 卒業論文にも使えるアンケート調査をすることにして、自分の足で企業をまわって、企業のかたと話をする機会を作った。
- ↓ はじめは、「ある会社が、ドラッグストア なのか 製薬会社 なのか」区別もつかなかった。
- しかし、徐々にどのような会社があるのか、わかってきた。
- ↓ 卒業時期が近づいたので、就職活動のための「特定活動」の在留資格に変更し、中途採用をめざした。
- ↓ 引き続き、企業訪問をした結果、いくつか面接の機会を得ることができた。
- ◇ ドラッグストアの企業に就職することができた。

(大学院2回生 女性 東アジア)



### カウンセラーから ひとつ、ふたこと

とても短い期間のなかに、就職活動をつめこみました。特に、本人の足でまわることに重点を置きました。企業訪問は緊張することなので、本人はよくがんばったと思います。ただ、もう少し早い時期から就職活動に取り組んでいれば、順序よく準備・活動できるので、本人にとって 小さな苦勞で進めることができたと思います。

## 参考

### 企業について勉強するには

- ◇ 先輩から話を聞く・・・大学のキャリアセンターに聞けば、先輩と話す機会があります。
- ◇ インターネットを活用する・・・企業のホームページから、いろいろな情報を手に入れることができます。
- ◇ 自分の足でかせぐ・・・関心のある企業の本社や店舗などに、実際に足を運んでみて、資料をもらったり、話を聞いたりできます。